

会 議 結 果 報 告 書

- 件 名 第 9 回アリーナ整備検討会議
- 日 時 令和 8 年 8 月 19 日(水) 10:00～11:10
- 場 所 本庁舎3階 第三会議室
- 出席者 別紙のとおり

【10:00 開会】

(柳井スポーツ文化局次長)

定刻となりましたので、ただいまから第 9 回アリーナ整備検討会議を開催いたします。

皆様、本日は大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

司会を担当いたします、岡山市スポーツ文化局の柳井と申します。

よろしくお願いいたします。

本日は岡山理科大学経営学部長／大学院マネジメント研究科長の林様が遅れておられます。

(※所要によりご欠席となりました。)

会議の前に、お手元の資料をご確認ください。

本日の次第、アリーナ整備検討会議のメンバー表、次に配席表、次に資料 1 岡山市アリーナ整備運営事業PFI事業者選定委員会について、資料 2 実施方針に記載する内容について、資料 3 要求水準書に記載する内容について、資料 4 スケジュールについて、資料 5 アリーナ整備に伴う周辺交通への影響について、資料 6 アリーナ整備に係る寄附の状況について、資料 7 アリーナワークショップの開催状況について、資料 8 岡山の未来を創り出すアリーナ展について

以上となっております。

全ての資料がお手元にお揃いでしょうか。よろしいでしょうか。それでは開会にあたり、座長の大森岡山市長からご挨拶を申し上げます。

(大森市長)

はい。皆さんこんにちは。大森でございます。

今日はお忙しいところ、第 9 回のアリーナ整備検討会議にご出席をいただきましてありがとうございます。令和 6 年 8 月から始まったこの会議も今回で 9 回目ということになります。

皆さん方の様々なご尽力に感謝を申し上げる次第でございます。

現在、このアリーナ整備事業は、地質の調査や実施方針案の作成など、整備運営事業者の入札に向けた準備を進めるとともに、ワークショップの開催など、アリーナ整備への機運醸成、寄附募集等を行っているところであります。

今回の会議では、まず、前回この場で伺ったご意見を踏まえ、アリーナ整備運営事業者を審査・評価する選定委員会の委員を選任いたしましたので、その概要について報告をいたします。

その後、現在作成中の実施方針、また要求水準書について記載していく項目の説明やワークショップの状況等の報告をさせていただきたいと思っております。

また、様々なご意見をいただいているアリーナ整備後の周辺道路への影響について、交差点解析を実施するとともに、東京大学の藤井先生にも交通解析をしていただきました。

実は藤井先生には、路面電車の駅前乗り入れのときにも交通解析をしていただいたという実績を持っております。

本日お越しいただいておりますので、その結果を藤井先生からお話をさせていただきたいと思います。

岡山の未来を創り出すアリーナの実現に向け、引き続き経済界そして地元トップチームとともに、岡山市も一体となって頑張っていきたいと思います。

本日も皆様の方の忌憚のないご意見、よろしくお願いをいたします。

（柳井スポーツ文化局次長）

ありがとうございました。

続きまして、副座長の岡山商工会議所松田会頭からご挨拶をいただきたいと思います。

会頭、お願いいたします。

（松田会頭）

皆さんおはようございます。

暑い夏が続いてはいますけれども、緩んできたかなという感じがいたしております。

甲子園に、私も学芸館の応援で 2 試合とも行ってまいりましたけれども、大変な人が集まって興奮状態になるわけですが、なぜ人はスポーツの応援をしに来るのが行ってみるとやっぱりわかるわけですし、街の全体的なムードがもう全く周辺が違ふし、そして地元を応援する愛情を持った方々が、互いにエールを送りながら戦ってる姿って非常に美しいものがあるなと思いました。

私ども、アリーナ建設にあたって、反対している方々からのご意見もずいぶん頂戴したわけですが、その意見を尊重しなければいけないということはもちろんですけれども、アリーナそのものを作るというよりも、この街の中に機能として、そのアリーナをどう位置づけていくかということが肝心で、もちろんスタジアムもそういった意味では必要だと思っておるわけですが、いわゆる街の品格であるとか、街の文化度であるとか、そういったことが今後の将来を託していく子どもたちに、私たちが残してあげられるかどうかということを検討しているわけですので、反対されている方々、いろんな理由がありましたけれども、そのあたりがいまいち理解が進んでいないというか、理解していただけていないのかなという思いもありました。

どんどんと、これからの建設に向かって着々と手続きが進んでいくわけですが、そういった思いを忘れずに、ぜひ未来の子どもたちのために私たちは街の機能を整備している。そして街の格を上げていくということをやってるんだということをぜひお互いに確認しながら進めていければと思っております。

よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

（柳井スポーツ文化局次長）

ありがとうございました。

続きまして、顧問の岡山市議会田口議長からご挨拶をいただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

（田口顧問）

おはようございます。まだまだ暑い日が続く中でこうして検討会議へご出席くださりまして誠にありがとうございます。

私の方からは、議会の様子その他でお話をさせていただきたいと思います。

まずは臨時市議会で、住民の直接請求というものが出されました。

結果としては、市長の意見を添えた流れの中で、二元代表制は機能しているということで否決しました。ただ、2万1,000人もの署名が集まった中で、賛成者もいれば、反対者もいらっしゃいます。

実を言うと、その中の一人なんですけれども、私のところへお手紙をいただきました。

その中で、賛成反対というよりは、市民にもっと説明をしてくれということでした。実を言うと、我々結構頑張っていて、市の当局も含めて説明をして、ワークショップ、ここでまた説明があると思いますが、それがまだまだ足りてないのかなという実感も起きました。

その人は、そのお手紙の中で、2万1,000人が全員反対してるわけではないんだと。やっぱりちゃんと筋を通して説明をしてくれればわかりますというようなことも書いて、ああ、そういうことなんだなっていうことで検討会議の中でしっかり議論し、我々議会の方も受身で頑張ろうっていうじゃなくて、やっぱり賛成する議員はしっかり市民に対して説明責任を果たしていくのが我々議会の仕事じゃないかなと思います。

そうした意味でも、今後統一地方選挙が4月からありますので、そうした流れの中で皆さん市民の方とより多くの直接的に触れる機会が多いと思いますので、アリーナというのは岡山市にとって必要なんだということをしっかりアピールをしていく。

そして今日お集まりの皆様方を含めた経済団体、そしてプロスポーツのそれぞれのチームの会社がしっかりアピールをしていって、市民の1人でも多くの方に理解をしていただくというのを今後も更なる努力を続けていくということが私は非常に大事じゃないかなと思ったわけであります。

これから具体的ないろんなことが決まっていきます。そうしたことを一つ一つ丁寧に市民に説明しながら頑張っていきたいと思います。

余談事ではありますが、ホーム戦ファジアーノ勝ちました。1対0で。私も応援に行ったんですけど、やはりスポーツの良さは、今、松田会頭がおっしゃったように隣同士全然知らない人たちが、抱き合ったり、握手をしたり、ハイタッチをしたりする、そういう盛り上がりの一体感。

これはやはり岡山市にとって本当に必要な事業だと思いますし、必要なことだと思いますので、市長がいつもおっしゃってるような、わくわくする岡山市を皆さんと一緒に作りたいと思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願いします。

今日は本当にどうもありがとうございます。

(柳井スポーツ文化局次長)

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入りますが、進行は座長の大森市長にお願いしたいと思います。

それでは大森市長、議事の進行をお願いいたします。

(大森座長)

はい。それでは、司会進行を務めさせていただきます。

進行につきましてはご協力のほどよろしくお願いをいたします。

まずはお手元の資料の次第に沿いまして進行していきます。

(1)岡山市アリーナ整備運営事業、PFI事業者選定委員会について(2)実施方針、要求水準書に記載する内容について事務局からお願いいたします。

(花田アリーナ整備推進担当課長)

スポーツ振興課の花田でございます。着座にて失礼いたします。

それでは(1)選定委員会について(2)実施方針、要求水準書に記載する内容については、一括してご説明いたします。

資料 1 をご覧ください。

本事業において、アリーナを整備運営する事業者を適正に選定するためには、高度な専門性と客観性が求められることから、市の職員のみではなく、外部の有識者等から成る選定委員会を条例に基づき設置することといたしました。

前回の検討会議において、選任する有識者の分野などについてご意見を皆様いただきましたが、この度、いただいたご意見も参考に委員を選任いたしましたのでご報告いたします。

都市計画の分野は岡山大学准教授の氏原岳人委員、氏原委員は岡山市都市計画審議会の委員をはじめ多くの審議会等の委員を歴任されております。

財務の分野は、EY 新日本有限責任監査法人長谷川太一委員。長谷川委員は、公認会計士で PPP/PFI やコンセッション導入支援のご経験も豊富で、豊橋市でのアリーナの審査委員もご経験されております。

地域経済の分野は検討会議のメンバーでもいらっしゃいます、岡山商工会議所副会頭の服部俊也委員。商工会議所におけるアリーナ等建設推進特別委員会の委員長でもいらっしゃいます。

続いて、スポーツの分野は、同じく検討会議のメンバーでもいらっしゃいます、岡山理科大学経営学部長、林恒宏委員。林委員の専門はスポーツマネージメント、スポーツマーケティングであり、スポーツによる地域活性地域経済活性化の研究にも取り組んでいらっしゃいます。

同じくスポーツの分野から、中京大学教授の舟橋弘晃委員。舟橋委員はスポーツ経済学がご専門で、スタジアムアリーナ改革に関するスポーツ庁、経済産業省の委員会等の委員を歴任されております。

建築の分野は、岡山大学准教授、堀裕典委員。堀委員は建築計画がご専門で、岡山市と市消防政策審議会の委員や岡山県のフットボールスタジアム検討協議会の委員でもいらっしゃいます。

PPP/PFI 公共政策の分野は、一橋大学名誉教授山内弘隆委員。山内委員は公共経済学がご専門であり、官民連携、PPP/PFI について精通され、今回本事業で実施を想定するコンセッション方式における他都市のアリーナ等の事業でも委員を歴任されております。

行政分野では検討会議のメンバーでもあり本事業に当初から携わってきた本市の岩田スポーツ局長が委員として参加いたします。

以上 8 名の委員で選定委員会を構成し、事業者の選定など、岡山市アリーナ整備運営事業の実施に必要な時期事項についてご審議いただく予定となっております。

続いて、実施方針と要求水準書に記載する内容についてご説明いたします。

実施方針と要求水準書は、9 月に案として公表する予定としております。現在、その内容について取りまとめを行っているところです。現時点ではそれぞれに記載する予定の項目についてご報告させていただきます。

資料 2 をご覧ください。実施方針についてです。

実施方針とは、PFI 事業として実施する予定であることと、その事業の基本的な方針をまとめたものであり住民や民間事業者に対する事前の周知を目的とするものであります。

項目については、資料に記載の通りであり、この項目は、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律、いわゆる PFI 法に定められているものです。

この中で、事業の目的や事業期間と本事業を PFI 法に基づき実施する方針であることなどの事業概要や、スケジュールや手続きなど、事業者の募集や選定方法、本事業におけるリスク分担の考え方、本事業

の立地条件に関すること等を示していく予定としております。

次に資料 3 をご覧ください。要求水準書についてです。

要求水準書とは、PFI 事業で民間事業者に対する対して求める条件や業務水準を示し、本事業における応募者の提案の具体的な指針となるものです。

項目については資料に記載の通りであり、事業概要、利用料金の取り扱いなど事業者の収入および費用に関する事項、収益の帰属等の総則的な内容を記載するとともに、設計業務、建設業務、開業準備業務、維持管理業務、運営実施業務等のそれぞれの段階において、基本方針の詳細な条件、業務水準等を記載していくこととしております。

資料 4 をご覧ください。

事業者募集に係る今後のスケジュールについてです。

現在、実施方針、要求水準書の案を作成しているところでありまして、9 月下旬にその内容を公表する予定としております。

その後事業費を取りまとめ、11 月議会において、岡山市の負担上限額として債務負担行為を設定し、令和 9 年 2 月に入札公告を行い、提案内容の審議を得て、令和 9 年度中の事業者選定、契約締結を行う予定となっております。

なお、事業費については、現在約 280 億円とお示しておりますけれども、これは令和 6 年 7 月時点の建設単価で算定しているものでございまして、昨今の物価高騰などを考慮すると、事業費への影響は避けられないものと考えております。

説明については以上となります。

(大森座長)

はい。

ありがとうございました。

今、事務局から説明がありましたが、選定委員会で委員を選定いたしました。

前回の検討会議でのご意見を踏まえて、アリーナ整備の経験、また知見のある方を中心に選定させていただきました。

本検討会議からも服部さん、そして林さん、また岡山市のスポーツ文化局長でもある岩田さんに、選定委員会のメンバーになっていただくことといたしました。

岡山らしいアリーナを実現させるにふさわしい事業者が選定できるよう、お三方のお知恵をお借りしたいと思っております。

よろしくお願いをいたします。

またアリーナ整備運営事業の肝となる実施方針と、要求水準書の項目案をお示しさせていただきました。

この項目を肉付けし、岡山の求めるアリーナの姿を明らかにしてまいりたいと思います。

事業費についても、物価高等の影響が避けられないとのことであります。

実施方針や要求水準書とともに引き続き精査をし、11 月議会までにはお示しをしてまいりたいと思います。

ここまでの内容についてご質問、またご意見などあればお願いをいたします。

どうでしょうか。ここまでよろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。

それでは、次の「(3)アリーナ整備に伴う周辺交通への影響について」に移らせていただきたいと思います。

す。

岡山市ではこの度、アリーナ整備後の周辺交通への影響について交通解析をいたしました。

この交通解析はアリーナへの車での来場による周辺の混雑状況や周辺道路の廃止、付け替えへの影響を明らかにするため実施したものであります。

特に周辺の方々から、アリーナができることによる渋滞の発生を懸念する声をいただいております。

その不安解消の一つの材料になればと思っております。

最初にもお話申し上げましたが、この交通解析については、東京大学の藤井准教授にご協力をいただきました。

本日はこの場にもお越しいただいております。

事務局の説明後に藤井先生にもお話をいただきたいと思います。

藤井先生よろしくお願いいたします。

それではまず、事務局より説明願います。

～モニター等設置～

(小林道路計画課長)

はい、お待たせいたしました。

道路計画課の小林です。

アリーナ整備に伴う周辺交通への影響について、周辺道路の交差点解析を実施しましたので報告いたします。

資料 5 をお手元にご用意ください。

表紙をめくっていただいて 1 ページをご覧ください。

同じものをモニターの方にも表示しております。

まず交差点解析の目的ですが、アリーナでのイベント開催時における周辺に与える交通の影響について検証を行うため、位置図の赤丸で示した 7 ヶ所の交差点において建設コンサルタントに委託して交差点解析を実施しました。

2 ページをご覧ください。

交差点解析を進める上での条件について説明いたします。

まず道路の条件としては、アリーナの整備に当たり周辺住民の生活環境を確保した上で、アリーナ来場者のスムーズかつ安全な移動、そして北長瀬未来ふれあい総合公園との連携による賑わい創出のため、アリーナ計画地と第 2 駐車場の間の市道を一部廃止するとともに、すぐ南の近接する 2 ヶ所の信号交差点を一つに集約します。

また、福山通運東側の道路については南向きに右折レーンを整備します。

次に駐車場の台数の条件として、アリーナ計画地の西にある平面の第 2 駐車場の駐車可能台数は 101 台アリーナ計画地の北にある立体の第 3 駐車場の駐車可能台数は 816 台としております。

3 ページをご覧ください。

交差点解析については想定される最も厳しい条件で交差点解析を実施しました。

具体的には北長瀬未来ふれあい総合公園の自動車来訪者が 1 年間で最も多い日にアリーナでイベントが開催されることを想定し、自動車来訪者のアリーナ周辺駐車場への入庫出庫がピークとなる時間帯を対象に、交差点解析を実施しています。

交差点解析における交通量の条件として、交差点フロー図をご参照ください。

まず、交差点解析の交通量については、1 年間で北長瀬未来ふれあい総合公園利用者が最も多い日が令和 6 年 10 月 13 日の全肉祭、通称肉フェスとも言われておりますが、そのイベントが実施された日であったため、その日の交通量約 1,600 台としております。

さらに、アリーナで開催されるイベントで来場者は多いものとして、地元トップチームの試合やコンサートの開催が想定されますが、自動車の交通量が増加するのは地元トップチームの試合開催時が想定され、約 1,000 台の交通量を加えております。

次に、交差点解析時間帯の条件として、アリーナでのイベント開催時に駐車場への入出庫がピークとなる時間帯としており、入庫時は試合開始 1 時間の 13 時台、出庫時は試合終了時からの 1 時間の 16 時台としております。

なお、アリーナ周辺の駐車場は 12 時台で満車となっていることを想定しております。

次に、駐車場入出庫時の交通量、入出庫の動線については、駐車場への入庫時は駐車場付近に流入した車両はそのまま流出。

駐車場からの出庫時は駐車場に駐車した全ての車両が 1 時間で出庫することを想定しております。

これらの条件をもとに交差点解析を実施し、交差点需要率を算出した結果、1 ページに示した 7 つの交差点全てにおいて、交通処理は可能という結果になりました。

詳しくは 4 ページをご覧ください。

アリーナ周辺の主要交差点 7 ヶ所におけるアリーナ整備前後の各交差点の需要率が資料のグラフとなります。

結果として、アリーナ周辺の 7 ヶ所の主要交差点におけるアリーナ整備前後の交差点需要率は限界値を下回っており、アリーナでのイベント開催時も周辺の交通処理は可能と考えております。

交差点解析の結果は以上となっております。

今説明した交差点解析は、数字でお示しするだけだとわかりにくいことから、東京大学の藤井先生にお願いし、研究活動の一つとして動画でシミュレーションを行っていただきました。

動画のシミュレーションは先ほどの今説明した交差点解析の条件をもとに作成しております。

藤井先生からは市道廃止した場合のイベントの来場時、退場時、次に市道を廃止しなかった場合のイベントの来場時、退場時のシミュレーションについて解説していただきます。

それでは藤井先生お願いいたします。

(藤井准教授)

東京大学の藤井です。それで私は私からシミュレーションの結果をご報告させていただきます。

まずこちらご覧いただいているのは、市道を廃止した場合の観客の来場時のシミュレーションになります。使用しているのは私達の研究室で研究開発してオープンソースで公開しているアドベンチャーミーツという交通シミュレーションの改良版になります。

今これ、実時間の 10 倍速で表示をしています。

このシミュレーションには、黒色の車両とオレンジ色の車両が登場しているのがご覧いただけるかと思いますが、黒色はアリーナとは関係なく、先ほどご説明ありましたけれども、隣接する総合公園で過去に全肉祭が行われたときの 13 時台の車の流れを表しています。

当日、実際に計測された交通量を再現できるようにこの黒色の車の出発地と目的地が設定されています。

全肉祭のときでも駐車場の利用がありましたので黒色の車両が駐車場を利用するということもこの動画で見てとれるかと思います。

これに対して、オレンジ色の車両がそれに上乗せされたアリーナの来場客の車の流れを表しています。すいません、ちょっとこれ、動画のあれがおかしいですね。

すいません、こちらが正しいものになります。市道廃止来場のものですね。

オレンジ色の車両がアリーナの来場客の車の流れになります基本的にエリアの東西からやってきて、駐車場を目指してやっていきますが、一部の車両が駐車場に入れずに市役所方面に戻っていくっていうのもあります。

アリーナにやってきたタクシーなども同じ経路で市役所側に戻っていきます。

一点補足ですが、シミュレーションの機能の観点から駐車場の満空情報というのは実は厳密には使っていないくて、短期的に見ると、ある車はここにやってきて駐車場入れないで戻っていくけれども、次の車が入れるっていうタイミングが出てきてしまっていますが、トータルとしては 13 時台の台数、駐車場の台数と、ここから出ていく台数、それからここに入れる台数のバランスが取れているということは確認できています。

繰り返しますがここからあふれた車が市役所の方面に戻っていくという挙動で調整をしています。

また、これもシミュレーションの都合なんですけど、出発地と目的地を同じに設定できないという都合がありまして、本来、市役所の方面に戻る車両はこの道路、この端から抜けていかなきゃいけないんですが、市役所から来て市役所に戻るっていうことができないので、この野田西交差点を左折して北上してしまうという車も出てきています。

そのように設定をしていますが、交通への影響は軽微ですし、もっと言ってしまうと直進の方が多くの車をさばけるので実際の交通状況はこれよりも良いものになる可能性の方が高いかと思います。

またシミュレーションの上では、これは現実の世界でも起こりうる話なんですけど、なかには車線変更に失敗する、車線変更したくてもできない車っていうのも登場してきています。

例えばこの辺りで右折するために第 2 車線に入りたいけれども、それができなかった車っていうのが出てきます。

その場合には再度経路選択し直して、当初予定しなかった経路を通して何としてもアリーナに向かうというような行動をとります。

数は少ないのでそれほど問題にはならないかと思いますが、ただこの辺りの細かい道路、細い道路を通過してアリーナに向かうっていうオレンジ色の車両がいるのはそのためです。

この辺り、数少ないと言いましたが、道路にあまり慣れてない観客が細い道路を利用する可能性があるということは少し頭に入れておく必要があるかもしれません。

全体として見ると、これ当たり前のことなんですけれどもアリーナ周辺この辺りの交差点でオレンジ色の車が車列の中に目立ってきます。

とはいえ、これが隣の交差点の信号まで塞いでしまうか、そんな渋滞になるかという、それほどでもないかなという印象です。

また、駐車場から出てくる車に関して、駐車場から出てくると言うか、駐車場を經由して、市役所の方に戻ってくる車に関して見ますと、このあたりに車列を作ることになりますが、それも右折の専用車線がしっかり伸ばされてるのであれば、特定の車がここで何回も赤信号に捕まってしまうということは見られませんでした。

注意点を述べさせていただくとすると、シミュレーションでは 1 時間の間に平均的に観客が来場するよう

に設定されています。

もし、これが例えば 10 分とか 15 分の間に大きなピークがあるような来場の仕方になってしまうと、もう少しこのあたりの渋滞は一時的には延びてしまうかなということがあります。

もう一点ですが、全ての車、このシミュレーションの中では道路の繋がりを知っているという前提です。例えば遠方からの観客など実際にいたとして、土地勘がなくて迷子のようにこの辺りぐるぐると回ってしまうという車がいるとすると、そういった車が悪影響を及ぼす影響はゼロではないかなと考えています。

したがって、可能であれば、なるべく来場時のピークを抑制というかなだらかにできるようにして、かつ想定したルートで来場してもらえるように誘導する、そういった運用ができるのであればそれがいいかなと考えています。

続いて、こちら退場時のシミュレーション、16 時台の車の流れをお見せしたいと思います。

今度はオレンジ色がアリーナから帰ろうとする車を表します。一部タクシーが市役所方面からやってきて市役所方面に帰っていくっていう流れも見られます。

動画に関係ないお話をすると、先ほど来場時にピークをなるべくなだらかにできるようにしてもらえるといいですよ、という話をしましたけれども、退場時に、実は駐車場のゲートがその役割を果たしまして、1 時間の間に通過できる車の台数というのは、駐車場の出口のところで制約されることになります。

つまり、自動的にある程度ピークが抑制されることになって、実はそれほど深刻な交通の渋滞は起きない。来場時よりも問題は起きないというふうに見込まれます。

このような形で、これが退場時のシミュレーションになっています。

少し時間を進めてみてもそれほどひどい渋滞は起きていない。少なくともオレンジ色の車が渋滞を起こしてしまっているという様子は見て取れません。

つまり、アリーナに来る車が主たる原因となって渋滞が起きている様子は見られませんでした。

こちら来場時のシミュレーションなんですけど、デッキを設置したとき、市道廃止せずにデッキを設置した場合の来場時の車の流れになります。

かいつまんで説明しますが、市道廃止の場合との大きな違いは駐車場に入ろうとする車、こちら入ろうとする車がもし入れなかったら、その車の半数があるいは西側の市道を通って、市役所の方に戻っていくという設定になっています。

時間をちょっと飛ばして見てみますと、この辺りですね。ここの交差点の青信号が短くなって、どうしても 1 回の青信号で通過できる車の台数が少なくなってしまうので、ここにたくさんの車がやってきちゃうとこのような渋滞が発生すると見込まれます。

こちらがデッキを設置したときの帰宅時退場時の車の流れになります。

市道廃止のときも申しあげました通り、駐車場から出場する車両のピークが自然と抑制されるというかなだらかになっているので、来場時ほど顕著ではないんですが、それでもある程度時間が経つとこの辺りに 1 回の青信号で裁けない程度の車が並んでしまうというような時間帯も見られました。

すいません、少し動画の方が切れてしまいながらの説明になってしまいましたが、私からも動的解析のご報告は以上となります。これが皆さんのご検討とかご議論を進める一助になれば幸いです。

どうもありがとうございました。

(大森座長)

はい、ありがとうございました。

事務局の説明もありましたが、藤井先生、本当にどうもいろいろな条件を設定しながらシミュレーション

を行っていただきましてありがとうございました。

黒い点、オレンジの点が動いているという状況、どんな状況になっているか、わかったような気がいたします。

アリーナでのイベント時の周辺交通状況について皆さんもイメージできたのではないかと思います。
どうでしょうか。

先ほどの事務局の説明、そして藤井先生のシミュレーションのご説明についてご意見またご質問などあればお願いをいたします。

（松田副座長）

平たく言うと、想像してるほど渋滞は起こらないということでしょうか。

（藤井准教授）

そうですね。私、第三者で、元々何も想像しないというか、予断を持たずにやったわけですがけれどもそこまでひどい渋滞は起こらないと思います。

（松田副座長）

一度市役所の方に行った車はまた戻ってくるのでしょうか。それとも、どうなってるのでしょうか。

（藤井准教授）

1回駐車場に入ろうとして入れずに市役所の方に戻ってきた車は、市役所周辺の駐車場を利用するという想定でシミュレーションをしています。

（松田副座長）

そうすると、そこに駐車した人っていうのはまた別の交通手段で戻ってくると。

（藤井准教授）

そういう想定ですね。

（松田副座長）

わかりました。戻ってくる交通手段については、別段その想定は何もない。

（藤井准教授）

そうですね。バスなどの想定なので、車の流れにはそこまでは影響しないということです。

（松田副座長）

そうすると、あらかじめそのバスで移動するとするという手段を知っていれば、わざわざアリーナまで車に乗ってこずに、駅の周辺や市役所周辺に止めて、そこからバスに乗って移動するということでしょうか。

（藤井准教授）

そうですね。その方が交通状況としてはより良くなるかなというふうに思います。なるべくバスで来てねと

というような周知ができれば、それがいいのかなと感じています。

（大森座長）

ほかにありますでしょうか。はい、どうぞ。

（三村氏）

岡山大学三村でございます。非常にわかりやすいプレゼンテーションありがとうございます。

今の Before、After で出てきたのが、やはりアリーナの方に直接北長瀬の方から歩行者動線で行けるってところが渋滞も含めてポイントですね。多分、今自動運転なんかも混在交通があるなど実用化に時間を要しています。今回の道路事業で、北長瀬のふれあい総合公園とアリーナがうまくつながれば、障害者の方とか高齢者の方とか、小さなお子様連れなんかも容易にストレスなく行けると思料します。

また、松田会頭のご指摘がありましたように、公共交通をなるべく使っていただくということで、岡山駅と北長瀬を拠点として、モビリティ政策を実施展開すれば、モデル的な取組みになると感じました。

以上でございます。

（藤井准教授）

ありがとうございます。私も同じ考えで、公共交通をなるべく使うようなことができればこのような今回のシミュレーションでもそこまで問題が起きてないわけですけども、そういったリスクもより減っていくし、いろんな方が来ていただけるアリーナになるんじゃないかなと思います。

（大森座長）

はい、ありがとうございました。

その他どうでしょうか。よろしいでしょうか。

今回のシミュレーション、事務局がやったものもそうなんですけども、最も厳しい条件を設定して、整理をさせていただきました。

事務局の方の資料でいきますと、4 ページをご覧くださいと思います。

全ての交差点において、限界値、おおむね 0.9 が目安というのが 2 行目に書いています。

0.9 が目安ということで、F 交差点がギリギリではありますけれども、下回っているということも出ていますので、アリーナ整備後も最も厳しい条件においても、交通処理が可能だと。もちろん様々な想定の中で、藤井先生もおっしゃったように、今よりは若干厳しい状況が出てくると、それはやむを得ないと思いますけれども、新たな公共交通等を使うとか、様々な転換を行うことによって、対応は十分可能であるというのが一応の結論だというように思っているところであります。

今回ご説明をしました、周辺環境の影響については、特に地元町内会の皆さん方が気にされております。

皆さまには今日の場でご意見をいただきましたが、後日地元町内会にも説明をさせていただきたいと思っています。

それでは藤井先生、本当にどうもありがとうございました。

機材を片付けていただいてよいでしょうか。

～機材撤収～

(大森座長)

それでは次に(4)(5)を寄附の状況およびアリーナワークショップについて事務局から説明をお願いいたします。

(花田アリーナ整備推進担当課長)

それでは(4)寄附の状況についてです。資料6をご覧ください。

7月末時点で寄付の内諾額は130件で29億2,815万円となっております。

また、昨年12月から実際の寄附受け入れを始めており、1月末時点の受け入れ額は、企業と個人からの寄付を合わせ、3億1,041万円となっております。

その他にも、7月末時点では未入金ですが、寄付の申請をいただいているものが2件、5,200万円となっております。

引き続き、本事業への理解を深め賛同いただくとともに、市民負担を少しでも軽減するため、経済界、トップチームと連携しながら、広く企業等へ協力をお願いしてまいりたいと考えております。

なお、寄附募集の委託業者については、令和8年度は5社で取り組んでございます。

続いてアリーナのワークショップについてです。

資料7をご覧ください。

アリーナのあるまち岡山について対話しようをテーマにアリーナの必要性や意義について学ぶとともに、アリーナを自分ごととして捉え、完成後の期待など、未来志向で話し合うワークショップを今年度全5回開催することとしています。

これまでに3回開催いたしましたのでその状況についてご報告いたします。

場所は3回とも杜の街グレースのクルンホールで事前に申し込みいただいた方にご参加いただきました。

1回目は「アリーナの基礎知識と国内の事例」をテーマに6月に開催し、44名の方にご参加いただきました。

岡山大学の高岡敦史准教授にご講演いただくとともに、私達のアリーナへの疑問と期待を整理しようというテーマで、グループに分かれ、意見交換を行いました。

2回目は「アリーナがある日常」をテーマに、7月に開催し、26名の方にご参加いただきました。

日本女子体育大学の上林功教授にご講演いただくとともに、「もしアリーナができれば、自分なら誰と何を過ごしたいか」というテーマで、グループにわかれて意見交換を行いました。

3回目は「賛成？反対？さあみんなで話をしよう」をテーマに、1月に開催し、32名の方にご参加いただきました。

当日は岡山大安寺中等教育学校の生徒によるディベートの実演を行った後、参加者がそれぞれ賛成反対両方の視点からディベートを体験し、事業に対する理解を深めました。

今後の予定として4回目は10月に、「現場のリアリティと使い手の視点」というテーマで、試合運営の裏側を見学した上で、トライフープ岡山ホームゲームを開設する予定です。

また5回目は11月に「私達の提言～誇れる岡山の未来～」をテーマに意見交換を行う予定です。

資料8をご覧ください。

ワークショップと同様、機運醸成の取り組みとして、先日8月13、14、17日の3日間市役所の1階市民ホールで、本事業の概要やワークショップの取り組み内容を幅広く知っていただくため、パネル展を開催い

たしました。

展示会では、トップチームの選手やスタッフの方にもご参加いただき、事業のパネル紹介やアリーナクイズの展示地元トップチームの紹介を行うとともに、「アリーナができれば誰と何をしたいか。」というテーマにアリーナへの期待について事業者に寄せ書きをいただき来場者に寄せ書きをいただきました。

引き続き本事業についての理解を一層深めていただくよう、様々な取り組みを行ってまいりたいと考えております。

説明は以上です。

（大森座長）

はい、ありがとうございました。

寄付金募集については、7 月末時点で 29 億 2,815 万円となっております。引き続きチーム、経済界と一体となって取り組んでいきたいと思ひます。

ワークショップについては 6 月から「アリーナのコト、ジブンゴト」と題したワークショップ、これまでに 3 回開催し、合計 102 人に来場いただいております。

来場者については、アリーナのあるまち岡山についての対話を通じ、理解を深めていただいたところがあります。

今年度、あと 2 回行いますので、市民の皆さんにぜひ参加をいただきたいと思います。

また先ほど事務局から話がありましたように、8 月 13 日から 17 日にかけて、地元トップチームの方々とともに、アリーナのパネル展を行い、多くの方々にお越しいただきました。

チームの皆さんには、練習の合間を縫ってご参加をいただき、この場を借りまして御礼を申し上げます。

せっかくの機会でありますから、チームの皆様からお話をいただきたいと思います。

8 月の（パネル展の）概要もちろんありますが、その他にも何かコメントをすることがあればお願いをいたしたいと思ひます。

まずは高田さん、お願いいたします。

（高田氏）

岡山シーガルズの高田です。どうもありがとうございます。

この前、選手 2 名参加させていただいて、本当に直接いろんな声が聞けたということで、市長のおっしゃる「わくわく」の自分たちもわくわく一緒にいろんな意見を言い合えたことがすごく良かったという感想がございました。

チームの方が今ちょっと不安定な状況ではあるんですけど、今日の夕方一つ区切りになれば新しいスタートが切れると思ひますので、アリーナの方も頑張っていきたいと思ひます。

（大森座長）

ありがとうございました。それでは真鍋さんお願いします。

（真鍋氏）

失礼します。バスケットボールチームトライフープ岡山の真鍋です。

私達クラブの紹介を少しさせていただきます。

開幕まで今日を含めまして残り 36 日になりました。

しっかりと岡山のプロチームの一員として、しっかりと結果にこだわっていききたいと考えております。

またこのアリーナにつきましては、私達クラブしっかりと段階を踏んで、ホップステップジャンプしていきたいというところを、岡山市とともに歩んでいききたいと考えております。

しっかりと地域に根差すクラブ、そこをしっかりと理念として、これからも行動していききたいと思っております。

よろしくお願いします。

（大森座長）

それでは羽場さんお願いします。

（羽場氏）

岡山リベッツ羽場です。

岡山リベッツ、今月から開幕して、初戦は負けたんですが、今週末、来週としっかり勝っていききたいと思っているところでございます。

アリーナについても、先週白神総監督等に参加していただいて、多くの方にお話を聞いていただき、理解を深めていただいたということを聞いております。

引き続き、岡山リベッツもしっかりとアリーナ設立に向けて、支援というかバックアップできることをしていきたいと思っております。以上です。

（大森座長）

はい。ありがとうございました。

岩田さんも関与をしていたということですから、コメントをお願いします。

（岩田スポーツ文化局局长）

はい、失礼します。スポーツ文化局岩田でございます。

今回のこのアリーナ構想という言いますか、アリーナの建設に向けてということで令和3年12月に提言をいただいてからスタートさせていただいております。

今までの間、市議会ともいろんな議論をしたり、説明会等々もさせていただき、周知に努めてはいるんですが、さっき議長の方からもありました7月には新アリーナの賛否を問う準備投票条例の制定についてということで結果的には条例自体は否決になりましたが、2万を超える署名をいただいているということで、なかなかまだまだ周知ができてないのかなということを感じておるところでございます。

いろんな策をして、先週展示とかもさせていただいてるんですけども、今後も引き続きタイミングを見計らいながら、いろんな周知に取り組んでいこうと思いますし、説明会等も各いろんなタイミング等々とらまえて、しっかり周知に励んでいきたいと思います。

皆さん、皆様方でいろんな会合があると思います。その中で説明をさせていただければ周知も広がるのかなと思ってますので、皆様方、引き続きご協力の方よろしくお願いします。

以上です。

（大森座長）

はい。ありがとうございました。それでは我々としても、経済界、そしてプロチームの皆さんとともに一体

となって機運醸成に努めていきたいと思いますので、先ほど岩田委員から話がありましたように、いろんな機会あったらご紹介いただいて、その場でもお話をさせていただきたいと思います。

ここまでのお話で、先ほどお話いただいた方以外のメンバーの方々から、ご意見をいただければと思います。

それでは松田さんから順番にご発言をお願いいたします。

（松田副座長）

松田でございます。積極的なご意見を頂戴しましてありがとうございます。

もう前に向かって進んでいることでございますので、ぜひより良い理解を広く求めて、皆さんとともに進めてまいりたいと思います。

今後の寄付のこと、今日もありましたけれども、さらに民間の寄付についても募っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（大森座長）

ありがとうございます。

高谷さん。

（高谷氏）

失礼します。今日もご説明ありがとうございました。

寄付の方もある程度目安が立ったのかなと。ただ、これではやはりまだ今の物価上昇ということで足りないだろうと認識しております。

さらに岡山商工会議所としても、決してこのアリーナ岡山市のものではなく、岡山県の施設だという認識の中で、県全体に機運を高めていくような活動をしっかりしていきたいと思っています。

もう一点。マイナスの報道というのは結構目にするんですが、このアリーナの必要性という報道がなかなか私達も目にする機会が本当にないということを実は自覚しております。

会議所としても、担当としてしっかりとメディアの皆さんにもそこをお伝えをして、このアリーナが岡山にできた時、先ほど松田会頭からもありましたように、どんな街が変わるんだと、どんな機能が加わるんだと、どんな経済効果があるんだと、いうことをしっかりと発信していかなければいけないと思っております。

ぜひ委員の皆様もご理解いただいて、機運を高めていければと思っております。

ありがとうございました。

（大森座長）

服部さんお願いします。

（服部氏）

服部でございます。

このたび選定委員に選任していただきました。先ほどから市長、会頭、そして皆さんもおっしゃる通り、地域の未来の長きにわたり県民市民に愛されるアリーナになるよう、しっかり審査してまいりたいと思います。

ありがとうございます。

(高橋氏)

先ほど、松田副座長からもお話があったんですが、やはり都市の核といいますか、シビックプライド、市民のプライドですね。

それを喚起するようなアリーナにぜひぜひしていきたいなと思います。

その中で、要求水準書に記載する内容というのがあったんですが、任意事業で、やはりそのアリーナでもちろんそのプロのスポーツができる。MICE もできる。それ以上に、そのプラスアルファで、何か市民がそこで集えるようなこと、そのようなこともぜひ水準書に記載して、それに基づいて企業の方から提案があると思うんですが、そのような審査をしていただければと思います。

余談になりますけど、昨日の山陽新聞さんで、岡山県で若い女性の流出が拡大しているというのがありました。ただ、やはりこれも岡山がもっともっと魅力的なまちになる、その一つの何ていいですか、エネルギーというか、スタートボタンを押す、そのようなアリーナに、私どもも一緒になってしていきたいなと思ってます。

どうぞよろしくお願いいたします。

(大森座長)

野田さん。

(野田氏)

岡山経済同友会の野田でございます。

アリーナの建設機運の醸成や、寄附金集めなどについて皆様方には非常にご尽力をいただいているところを今日も拝聴して、私も自ら動かなければならないなという意を新たにしたところでございます。

この会議のメンバーから3名事業者の選定委員会に就任されるということですがけれども、今、全国でアリーナ、スタジアムも含めて設置が乱立してるような状況でございます。

岡山だけでなく、外の新たな施設とどのようにして折り合っていくとか、持続していくか、その辺の戦略的なことも含めて、委員に就任された皆様には事業者の選定をお考えいただけたらなと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

(長澤氏)

はい。日本政策投資銀行の長澤でございます。

ご説明いただきまして、アリーナの計画が着々と進んでいることを心強く感じております。

アリーナの効果は経済効果とか、シビックプライドとかいろいろあるわけですがけれども、先ほど高橋さんからありましたが、最近若者とか女性の社会流出が大きな社会問題になっている中で、若者からはやはりエンタメが少ないというのが岡山から出る理由として挙げられています。

そういう意味では、アリーナもいろいろ採算等何とか問題はあるにしても、未来の若者への投資、若者を引き留めるための投資という意味合いもあるということを改めて皆さんにも認識していただきながら、応援していきたいなと思います。

以上です。

(大森座長)

はい。ありがとうございました北川さん。

(北川氏)

はい。ファジアーノ岡山の北川でございます。

交通シミュレーション大変勉強になりました。ありがとうございました。

ただ、我々もう20年近く興行をやっておりまして、ファジアーノのせいで渋滞するってもう毎回お叱りをいただいておりますけども、土曜日に開幕戦がありまして1万4,000人強集まっていたんですけども、渋滞は全くなかったんですね。試合前も後も。お盆と重なる、試合だけだったら、全く渋滞がないんです。

今、先ほどアリーナに917台駐車場ありましたけども、スタジアムはもっと少ないんですね。

実は、日常からスタジアムのせいで渋滞しているということは多分ないんですけど、必ず言われてしまうので、ぜひこの使う団体の皆様、頑張ってくださいたいなと思っております。

なので、こういったことを一つずつ解決したうえで進めないといけないんですけども、ただ、公共交通機関で行くといっても我々10年ぐらいかかりました。

そういった意味では、しっかりそういった公共交通機関を使って見に行く文化を作っていく努力は、スポーツ団体がしていかなければいけないと思っておりますので、我々もしっかり興行のときにそういった文化を作っていく、アリーナでもそういった文化を作っていく、それが重要なのかなと思っております。

以上です。

(大森座長)

はい。ありがとうございました。

羽場さん、真鍋さん、高田さんいいですか。

はい。では松井さんお願いします。

(松井氏)

失礼します。

改めまして、本当にこのアリーナが前に進んでるなということをひしひしと感じております。

私、スポーツ協会なんでやはりスポーツには人を育てる、そして地域を元気にし、多くの人を繋ぐ魅力がございます。

選定委員のメンバーさん、この中から3名ということで、その委員の皆様にぜひお願いしたいのは、やはりこのアリーナが岡山市の未来にどのような価値を残すのか。そこに重きを置いてご議論、選定をしていただければと思っております。

今後ともよろしくお願いします。

以上です。

(大森座長)

では三浦さんお願いします。

(三浦氏)

環太平洋大学の三浦といいます。

本日はシミュレーションありがとうございました。勉強になりました。

それから、住民合意という大変な業務を担っていただいております関係者の皆さん、ありがとうございます。徐々に進んでいることに大変嬉しく思いました。

私が気になっているのは、JR で来る観客の北長瀬駅の混雑状況とか、あるいは雨天時にいったいどんな安全対策が行われるのだろうかということです。

私たち、環太平洋大学にはスポーツ科学センターがありまして、アスリートのために、東京にあるナショナルスポーツ科学センターに負けないような支援をするにはどうしたら良いかということを考えながら、ずっとこの 8 年ぐらい継続的に取り組んでいます。

本学の大学生レベルのアスリートと、トップアスリートとでは要求する水準内容が全く変わります。また、スポーツ種目によってもその要求する内容が変わるので、優先順位をつけながら予算建てをし、最先端機器を整備するというを行って、今、継続的にやっていますが、このアリーナにおいては、今度は応援する観客のためにどのように観せられるかという仕様、エンタメにおいてはここではないような仕様、あるいはスポーツ観戦においても、ここではないような仕様。

この点についてどんなものができるのかということに非常に興味があります。

ぜひそういったことを計画の中に入れていただいて、取り組んでもらえたらありがたいなと思います。

以上です。

(大森座長)

はい。三村さん。

(三村氏)

それでは一言。今、外部の委員の話がありました。岡山大学からということで、今回入っていただく氏原先生、堀先生とは他の審議会と一緒にさせていただいたことがありますけれども、お二人とも素晴らしい専門家であります。よろしくお願いいたします。

以上でございます。

(大森座長)

ありがとうございました。

本日は選定委員会について、実施方針と要求水準書に記載する内容について、またアリーナ整備後の周辺交通への影響について、アリーナワークショップについてお話をさせていただきました。

アリーナ整備事業の肝となる実施方針、また要求水準書については、今日いただいた意見を踏まえ、岡山らしいアリーナの実現に向けて整理をしていきたいと思います。

三浦先生や皆さんがおっしゃった、岡山らしい他にはない何かっていうのも本当に必要ではないかなというように思います。

また皆さんの関心の高い周辺交通への影響については、東大の藤井先生、本当にどうもありがとうございました。

素晴らしいシミュレーション、あの黒い点の動き方、オレンジの点の動き方だけ見ても、対応が可能だなんていうのがよくわかった次第であります。本当にどうもありがとうございました。

ただ、これからいろいろなことが出てくると思いますので、我々はアリーナ整備運営事業者と連携しながら

ら対策を講じていきたいと思います。

また今回の内容については、地元にも改めて説明させていただくとともに、ワークショップや展示会等の開催を通じて、経済界トップチームとともに、市民の皆様のご理解を促進していきたいと思います。

引き続き、進捗などがあればこの場でご報告し、議論させていただきたいと思いますのでよろしくお願いをいたします。

最後になりますが、何かあれば手を挙げていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

それではちょっと私の方から一言。昨日広島に行っていまして、我々、毎年四つの都市が集まって議論をしていくんですよ。

広島、岡山、高松、松山でお国自慢などもしながらですね、そういう中で、我々として今後何をしていかなきゃならないかっていう刺激を受けるその場で、非常に私は有益な場だなと思った次第であります。

様々な話題が出ましたけれども、一つはこれに直接は関係ないかもしれませんが、公共交通の問題、路面電車が、広島は駅の2階に乗り入れをしたということで、路面電車の使い方にやはり変化が起こってきた。

我々も今年度中には乗り入れをし、今、延伸の動きもしているところであります。

そういった議論、その中では、高松市だけが路面電車がなくて、羨望の目で見られたような気もいたします。

やはり出てきたのが、プロチーム、そしてアマチュアのスポーツ、それからエンタメの話でありアリーナ整備やスタジアムの問題についても話がありました。

話題では、ファジアーノJ1でまた勝ったねっていうのもありましたし、リベッツの張本選手と松島選手、日本のワンツースを手に入れるということもあったりはしたんですが、アリーナ整備については特に高松が動いております。サザンが来たというような話で、特に後段は田口議長も桑田佳祐さんを見に行ったというのが話題になったところでもあります。

(田口顧問)

妻がね。

(大森座長)

このアリーナの乱立っていう表現が少しありましたけれども、収まる場所には私は収まっていくのではないかなというように思います。

最終的には利便性の高いところ、人を集められるようなところ、そういったところが残っていくのだろうというように思っているというところであり、岡山の場合は非常に交通の利便もいいですし、そういう面では競争力は十分あるだろうというように思っているところでもあります。

一つ一つ、先ほどおっしゃったように、岡山らしさっていうか岡山らしさという表現がいいかどうかわかりませんが、ここへ来ると、他では観られないものが観られるとかそういったことを考えながら、このアリーナ、少しでも良いものにしていければというように思っているところでもあります。

これからもよろしくお願いを申し上げます。

最後ですが事務局から何かありますか。

(花田アリーナ整備推進担当課長)

はい。それでは事務局から失礼いたします。次回のアリーナ整備検討会議の予定についてご説明させていただきます。

次回の予定ですけれども、10月頃に開催できればと考えております。

実施方針ですとか、要求水準書の案の内容等をお示しできるようにと考えております。

以上でございます。

（大森座長）

この10月頃の開催を踏まえて、我々としては11月の議会に当局としての案を提示し、議会に賛同を求めていく、承認を求めていくということになるのではないかと考えております。

それでは今日はありがとうございました。

他にないということでありますので、司会に進行を戻したいと思います。

ありがとうございました。

（柳井スポーツ文化局次長）

以上をもちまして、第9回アリーナ整備検討会議を終了いたします。

本日は誠にありがとうございましたありがとうございました。